

平成 20 年度 学校 評価 結果

兵庫県立東灘高等学校 全日制

学校 教育 目標	(1) 基礎基本を重視し、自ら学ぶ意欲の育成と個性を生かす教育を充実する。	重 点 目 標	(1) 「魅力ある学校、活力ある学校」をモットーに明るく、元気な校風の樹立に努める。
	(2) 生命の大切さや思いやりの心を育て、共に生きる社会をめざす福祉の心を育成する。		(2) 学校・家庭・地域・同窓会・関係機関との連携・協力を図り、地域に信頼される学校づくりに努める。
	(3) 健全な精神と身体の養成を図り、社会の変化に柔軟に対応してたくましく生きる人間を育成する。		(3) 人間的なふれあいに基づく生徒指導を通じた、規律ある生活態度を育成する。 (4) 教職員としての豊かな人間性の涵養に努め、専門性と実践的指導力の向上を目指した研修の充実を図る。 (5) 震災から学んだ教訓を生かし、新たな防災教育の充実に努める。

評価 ・よくできた(4) ・できた(3) ・あまりできなかった(2) ・できなかった(1)

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	実践目標と成果	学校評価
学校 運 営	学校づくり	1 家庭や地域への情報発信	実践目標	学校ホームページや学年通信等を通じて、保護者に学校の情報を提供する。	2.6
		2 評議員制度を活用した学校運営	実践目標	学校評議委員会やPTA懇談会等で各委員から出された意見を吟味し、授業や行事の改善に役立てる。	2.6
		3 地域に信頼される学校づくりの推進	実践目標	正しい着こなしや規範意識など、規律正しい生活を送るための支援を行う。	2.5
	生徒指導	4 生徒の内面理解を図る	実践目標	個人面談を実施するとともに、家庭と密接な連携を図り、必要あれば家庭訪問を行う。	3.1
		5 生徒の内面理解を図る	実践目標	職員研修会等を実施し、生徒の内面理解を図る指導法の共有を図る。	3.3
		6 生徒の自主・自律の精神を育てる	実践目標	生徒会行事については、生徒実行委員会を設置し、生徒が企画・運営を行う。	2.8
	進路指導	7 進路指導體制の充実	実践目標	3年間を見据えた進路指導に対する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。	3.3
		8 職業観・勤労観、進路意識の向上	実践目標	外部講師等を活用した進路講演会を開催する。「進路のしおり」の発行など、進路選択の情報を提供する。	3.4
	教職員の資質向上	9 実践的指導力の向上	実践目標	授業研究（研究授業・公開授業）の実施により、授業の改善を図る。	2.1
		10 計画性を持った研修の実施	実践目標	学校の諸課題について校内研修を計画的に実施する。	2.9
	危機管理体制の整備	11 学校マニュアルの策定と訓練	実践目標	危機管理マニュアルに基づき、不測の事態に備えて適切な訓練を行う。	2.7
		12 連携した危機管理体制の推進	実践目標	家庭・地域・関係機関との連携を密にし、実情に応じた危機管理体制を整える。	2.7
	学校運営全般	13 組織の活性化	実践目標	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係をつくる。	2.6
		14 校務分掌における取組	実践目標	分掌毎に重点目標を年度当初に設定し、適宜、取組について評価・見直しを行う。	2.5

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果		学校評価
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	15体験的・問題解決的な学習の展開	実践目標	インターンシップやふれあい育児体験等の体験的な学習や問題解決的な学習の定着を図る。	2.8
	基礎基本の定着	16学力の把握と評価規準の設定	実践目標	各教科で評価規準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。	2.8
		17教材の精選	実践目標	各教科において、基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている。	2.9
	総合的な学習の時間	18教職員の協働体制の確立	実践目標	生徒の興味、関心等、そのニーズにあった学習テーマを設定した年間計画を立てる。	2.7
	個に応じた学習指導の推進	19評価方法の工夫	実践目標	目標に準拠した絶対評価と観点別評価の趣旨を教務規定に反映させ、様々な評価方法の導入を図る。	2.7
		20指導形態の工夫	実践目標	英語・数学等で習熟度別授業や少人数指導・個別に応じた指導を行う。	3.2
	特別活動	21学校行事の精選	実践目標	学校行事の検討委員会を定期的に開催し、行事の精選や充実を図る。	2.9
		22学校行事の充実	実践目標	文化祭や体育祭等、学校行事の後は、職員・生徒のアンケートを取り、その結果を次回に生かす。	3.1
	防災・安全教育	23防災教育に係る指導力の向上	実践目標	防災訓練を行う前に教員による打合せを行い、意識の高い訓練を行う。	2.8
		24安全教育への取組	実践目標	家庭や地域・関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、自他の生命を尊重する意識を高める。	2.9
	人権教育	25人権教育推進体制への取組	実践目標	3年間を見通した人権ホームルームの充実を図り、計画的に実施する。	2.1
		26確かな人権意識の育成	実践目標	人権教育推進委員会を中心に、年間の人権HRの実施内容などの検討を行う。	2.2
	情報教育	27情報活用能力の育成	実践目標	教科「情報」を中心に生徒の情報活用能力の育成を図る。	2.7
28情報モラルの育成		実践目標	人権尊重を基盤として、プライバシーの保護や著作権の尊重等を考えさせ、出会い系サイト等に潜む危険について指導する。	2.6	
高校生地域貢献活動	29体験活動の推進	実践目標	保育所訪問への参加など、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。	2.9	
環境・福祉教育	30環境教育の推進	実践目標	ゴミ・リサイクル・省エネなどの身近な問題から環境への関心を高め、よりよい環境づくりをめざす。	2.5	
国際理解	31国際理解の推進	実践目標	A L Tとの交流など、異文化を学ぶ機会を設定する。	2.5	
生徒会活動	32生徒会活動の活性化への取組	実践目標	部活動の加入率アップに向けた取り組みを行ない、生徒会活動の活性化に努める。	2.7	
学力向上	33家庭学習をすすめる課題等の設定	実践目標	週末課題等を検討することによる、生徒の家庭学習の習慣化を図る。	2.4	
学校の個性化	34特色ある教育課程の編成	実践目標	生徒の興味、関心や進路希望に対応した類型を設置し、その教育目標・教育課程・年間計画を明確にする。	2.9	
課題教育					